

■山田盛太郎 経済学者。政治イデオロギー剥き出しの「日本資本主義分析」刊行して大反響も、 検挙され転向。

やまだもりたろう
八幡製鉄始・1897＝

愛知県一宮市(旧葉栗郡木曽川町)で、 中小地主山田金次郎の長男に生まれる。母はすゑ。

日比谷公園・1903＝ 6歳：黒田尋常小学校に入学。

満鉄発足・・・1906＝ 9歳：

大逆事件判決1911＝14歳：黒田尋常高等小学校高等科を卒業。愛知県立第一中学校に入学。

気詰まりな寮生活を送りながら、

21ヶ条要求・1915＝18歳：卒業。進学を父に反対されて、家出し上京、明治大学に入学するも飽き足らず、
民本主義・・・1916＝19歳：帰郷後、第八高等学校第一部甲類に入学。

病気で1年休学する一方、芸術に強い関心を抱くとともに、河上肇を通じて、マルクス主義と出会い、

大暴落・・・1920＝23歳：卒業すると、 東京帝国大学経済学部経済学科に進学。

原敬首相暗殺1921＝24歳：英訳の「資本論」を購入、ドイツ語版も入手、

水平社結成・1922＝25歳：写真版のエンゲルス版が輸入されると、早速購入。

関東大震災・1923＝26歳：東京帝大を卒業。東京帝国大学経済学部副手となり、

護憲三派圧勝1924＝27歳：助教授平野義太郎らと資本論の研究会、{帝国大学新聞}に映画・美術批評を寄せながら、助手を経て、

治安維持法・1925＝28歳：「価値論における矛盾と止揚」をまとめて、助教授に就任。鈴木茂三郎の主宰する{政治研究会}に参加、

円本時代始・1926＝29歳：「マルクス主義雑誌{大衆}の編集同人となる。

金融恐慌・・・1927＝30歳：同郷で小学校同級生の妹よねと結婚。

共産党事件・1928＝31歳：教科書として「資本論」を用いたいと申請するも、教授会で否決される。

世界恐慌・・・1929＝32歳：共産党の青年組織に属する元学生の勧誘に応じて寄附したことが、

海軍軍縮条約1930＝33歳：共産党シンパ事件となり、依願免官とともに、起訴され収監、保釈されるも、以後在野の研究者となり、

満州事変・・・1931＝34歳：「再生産過程表式分析序論」発表。{日本資本主義発達史講座}刊行準備に加わり、

五一五事件・1932＝35歳：刊行始。判決は懲役2年執行猶予3年。同郷の коммуニストの友人岩田義道が拷問死したことに衝撃受け、

国際連盟脱退1933＝36歳：{講座}終るが、その間発表した3論文をまとめ、

帝人疑獄事件1934＝37歳：*政治イデオロギーを剥き出しにした主著「日本資本主義分析」刊行し、大反響。

芥川直木賞始1935＝38歳：東京帝大経済学部で講演。講座派論客らと「日本封建制講座」刊行を企画し、

二二六事件・1936＝39歳：*一同とともに、検挙され(コム・アカデミー事件)、転向を表明し、自ら「分析」を絶版とする。拘禁。

日中戦争始・1937＝40歳：起訴猶予・保護観察処分。日中戦争開始後、中国農業の実態調査に従事し、

第二次大戦始1939＝42歳：東亜研究所第五調査委員会嘱託に就任。

大政翼賛会・1940＝43歳：満州・華北農業事情調査、

・・・・・・1942＝45歳：臨時在上海大日本帝国大使館嘱託に就任。

創価学会検挙1943＝46歳：東亜研究所第九調査委員会主査に就任し、 広東珠江三角洲地区農田水利調査、

敗戦・・・・・・1945＝48歳：*敗戦後、農地審議会委員に就任。東京帝国大学に復帰し、経済学部教授に就任。

新憲法施行・1947＝50歳：中央農地委員会委員に就任。

極東裁判決・1948＝51歳：土地制度史学会を創立。北海道で農地改革の意義について講演。

三大事件・・・1949＝52歳：論文「農地改革の歴史的意義」。

朝鮮戦争始・1950＝53歳：経済学博士(東京大学)を授与される。翌年にかけて、東京大学経済学部長。日本学士院会員に就任。

独立回復・・・1951＝54歳：

なべ底不況・1957＝60歳：*東京大学を定年退職。専修大学教授に就任。

インスリン療法・1958＝61歳：心筋梗塞で入院。

安保闘争・・・1960＝63歳：

TV宇宙中継始1963＝66歳：専修大学社会科学研究所所長に就任。

いざなぎ景気1966＝69歳：東京大学名誉教授。

美濃部都知事1967＝70歳：専修大学を定年退職。勲二等瑞宝章。

霞ヶ関ビル・1968＝71歳：龍谷大学教授に就任。

全共闘運動・1969＝72歳：

JALハイジャック・1977＝80歳：龍谷大学を定年退職。

成田衝突・・・1978＝81歳：

貿易摩擦問題1980＝83歳：東京阿佐ヶ谷の病院で、回盲部膿瘍のため、_没した。

評伝日本の経済思想「山田盛太郎」、平凡社百科事典、